

平成30年度

上宮太子高等学校 入学考査問題

国 語

(50分)

〔注意〕 次の(1)～(5)をよく読むこと。

注 意 事 項

- (1) この問題冊子は、「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- (2) 問題は、**1**・**2**です。印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気付いた場合は、挙手して監督者に知らせなさい。
- (3) 解答用紙は、別に1枚あります。解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- (4) 受験番号・名前は、問題冊子と解答用紙の両方に記入しなさい。
- (5) 「終了」の合図で、筆記用具を置きなさい。

受 験 番 号				名 前	

1

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

こどものときから、忘れてはいけない、忘れてはいけない、と教えられ、忘れたと言っては叱られてきた。そのせいもあって、忘れることに恐怖心をいだき続けている。悪いときめてしまう。

学校が忘れるな、よく覚えろ、と命じるのは、それなりの理由がある。教室は知識を与える。知識をふやすのを目標にする。せつかく与えたものを㊦カタハシから、捨ててしまつては困る。よく覚えておけ。覚えているかどうか、ときどき試験をして調べる。覚えていなければ減点して警告する。点がいい方がいいにきまつているから、みんな知らず知らずのうちに、忘れるのをこわがるようになる。

教育程度が高くなればなるほど、そして、頭がいいと言われれば、言われるほど、知識をたくさんもっている。つまり、忘れないでいるものが多い。頭の優秀さは、記憶力の優秀さとしばしば同じ意味をもっている。それで、生き字引しじびきというような人間ができる。

ここで、われわれの頭を、どう考えるかが、問題である。

これまでの教育では、人間の頭脳を、倉庫のようなものと見てきた。知識をどんどん蓄積する。倉庫は大きければ大きいほどよろしい。中にたくさんものが詰つていればいるほど結構だとなる。

せつかく蓄積しようとしている一方から、どんなものがなくなつて行つたりしてはことだから、忘れるな、が合言葉になる。ときどき在庫検査をして、なくなつていないかどうかをチェックする。それが

倉庫としての頭にとっては、忘却は敵である。博識は学問のある

脳にとつておそるべき敵があらわれた。コンピューターである。これが倉庫としてはすばらしい機能をもっている。

A

X

いったん入れたものは決して失わ^①ない。必要なときには、きつと、引き出すことができる。整理も完全である。

【ア】

コンピュータの出現、⑤普及にともなって、人間の頭を倉庫として使うことに、疑問がわいてきた。コンピュータ人間をこしらえていたのでは、本もののコンピュータにかなうわけがない。

そこでようやく創造的人間ということが問題になってきた。コンピュータのできないことをしなくては、というのである。

人間の頭はこれからも、一部は倉庫の役をはたし続けなくてはならないだろうが、それだけではいけない。新しいことを考え出す工場ではなくてはならない。倉庫なら、入れたものを⑥紛失しないようにしておけばいいが、ものを作り出すには、そういう保存保管の能力だけではしかなかった。

B、工場にやたらなものが入っているのは作業効率が悪い。よけいなものは処分して広々としたスペースをとる必要がある。それかと言って、すべてのものをすててしまつては仕事にならない。整理が大事になる。

倉庫にだつて整理は欠かせないが、それはあるものを順序よく並べる整理である。それに対して、工場内の整理は、作業のじやまになるものを取り除く整理である。【イ】

この工場の整理に当ることをするのが、忘却である。人間の頭を倉庫として見れば、危険視される忘却だが、工場として能率をよくしようと思えば、どんどん忘れてやらなくてはいけない。

⑥そのことが、いまの人間にはよくわかっていない。それで①工場の中を倉庫のようにして喜んでいる人があられる。工場としても、倉庫としてもうまく機能しない頭を育ててしまいかねない。コンピュータには、こういう忘却ができないのである。コンピュータには倉庫に専念させ、人間の頭は、知的工場に重点をおくようにする

のが、これからの方向でなくてはならない。

それには、②忘れることに対する偏見を改めなくてはならない。そして、そのつもりになってみると、忘れるのは案外、難しい。

C、何か突発の事件が起つたとする。その渦中の人は、あまりのことに、あれもこれもいろいろなことが一時に殺到する。頭の中へ③どんどんいろいろなことが入ってきて、混乱状態におちいる。③茫然自失ぼうぜんじしつ、どうしていいかわからなくなる。これが「忙しい」のである。「忙」の字は、心（りっしんべん）を亡くしていると書く。忙しいと頭が働かなくなってしまう。頭を忙しくしてはいけない。がらくたのいっぱいいっばいの倉庫は困る。

平常の生活で、頭が忙しくてはいけない。人間は、自然に、頭の中を整理して、忙しくならないようになっていく。

睡眠である。

眠ってからしばらくすると、レム（REM）睡眠というものが始まる。マブタがピクピクする。このレムの中に、頭はその日のうちにあつたことを整理している。記憶しておくべきこと、D、倉庫に入れるべきものと、処分してしまつてよいもの、忘れるものとの区分けが行なわれる。自然忘却である。【ウ】

朝目をさまして、気分爽快であるのは、夜の間、頭の中がきれいに整理されて、広々としているからである。何かの事情で、それが妨げられると、寝ざめが悪く、頭が重い。

朝の時間が、④思考にとつて黄金の時間であるのも、頭の工場の中がよく整頓されて、動きやすくなっているからにほかならない。

昔の人は、自然に従つた生活をしていたから、神の与え給うた忘却作用である睡眠だけで、充分、頭の掃除がで

きた。ところが、いまの人間は、情報⑤カタといわれる社会に生きている。どうしても必要なものが、頭にたまりやすい。夜のレム睡眠くらいでは、処理できないものが残る。これをそのままにしておけば、だんだん頭の中が混乱し、常時、「忙しい」状態になる。ノイローゼなども、そういう原因から起る。

かつては、忘れてはいけない、忘れてはいけない、と言っていた。倉庫として頭を使った。中が広々していたからである。このごろは入れるものが⑥多くなったのに、スペースには限りがある。その上、倉庫だけではなく⑤工場としてもものを創り出さなくてはいけない。⑥場ふさががごろごろしているのは不都合である。【 E 】

これまで、多くの人はこんなことは考えたこともないから、さあ、忘れてみよ、と言われても、さっさと忘れられるわけがない。しかし、入るものがあれば、出るものがなくてはならない。入れるだけで、出さなくては、爆発してしまう。

食べものを食べる。消化して吸収すべきものを吸収したら、そのこりは体外へ排泄する。食べるだけで、排泄しなければ、糞づまりである。これまでの、倉庫式教育は、うっかりしていると、この糞づまりをつくりかねなかった。どんどん摂取したら、どんどん排泄しないといけない。⑦目のかたきにするのは大きな誤りである。

勉強し、知識を習得する一方で、不要になったものを、処分し、整理する必要がある。何が大切で、何がそうでないか。これがわからないと、古新聞一枚だって、整理できないが、いちいちそれを考えているひまはない。自然のうちに、直観的に、あとあと必要そうなものと、不要らしいものを区分けして、Zをしていく。

頭をよく働かせるには、この“忘れる”ことが、きわめて大切である。頭を高効率の工場にするためにも、どうしてもたえず忘れて行く必要がある。

忘れるのは価値観にもとづいて忘れる。おもしろいと思っっていることは、些ささい細なことでめったに忘れない。価値観がしっかりしていないと、**㉑**大切なものを忘れ、つまらないものを覚えていることになる。これについては、さらに考えなくてはならない。

(外山滋比古「思考の整理学」)

※ 「生き字引」 ……ひろく知識がある人。

※ 「ことだから」 ……大変だから。

問1 傍線部**㉒**、**㉓**のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

問2 傍線部**㉔**、**㉕**の品詞名として最も適当なものを、それぞれ次のア～コから一つずつ選んで、記号で答えなさい。(ただし、同じ記号は使ってはならない)

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|-----|---|-----|---|------|---|-----|
| ア | 名詞 | イ | 動詞 | ウ | 形容詞 | エ | 形容動詞 | オ | 連体詞 |
| カ | 副詞 | キ | 助動詞 | ク | 助詞 | ケ | 感動詞 | コ | 接続詞 |

問3 本文中の**X**、**Y**、**Z**に入れるのに最も適当な言葉を、それぞれ次のア～エから一つずつ選んで、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|----------|---|------|---|------|---|---------|---|------|
| X | ア | 叱責 | イ | 監視 | ウ | 防犯 | エ | テスト |
| Y | ア | 知識 | イ | 忘却 | ウ | コンピューター | エ | 記憶 |
| Z | ア | 一喜一憂 | イ | 新陳代謝 | ウ | 不言実行 | エ | 温故知新 |

問4 本文中の **A** **D** に入れるのに最も適当なものを、それぞれ次の **A** **カ** から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

A 例えば **イ** まるで **ウ** すなわち **エ** だいいち **オ** なぜなら **カ** ところが

問5 傍線部①「工場の中を倉庫のようにして喜んでいる人」とありますが、どのような人ですか。それを説明した次の文の空欄 **I**・**II** に入る適当な言葉を、本文中の言葉を使って答えなさい。

(**I**) という頭の使い方よりも、(**II**) 頭の使い方を大切にする人。

問6 傍線部②「忘れることに対する偏見」とありますが、それはどのような考え方ですか。説明しなさい。

問7 傍線部③「茫然自失」・⑦「目のかたきにする」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の **A** **イ** から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

③ 「茫然自失」

- | |
|---|
| A 自然の赴 <small>おもむ</small> くままに自分を任せること |
| イ 困難な状態を自分一人で対処すること |
| ウ 自分を見失って、あきらめること |
| エ あっけにとられて我を忘れること |

⑦ 「目のかたきにする」

エ	ウ	イ	ア
周りに気を配らない	憎んで敵視する	できる限り我慢する	不快感を示す

問 8 傍線部④ 「思考にとって黄金の時間」とありますが、それはどのような時間ですか。最も適当なものを、次のア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 最も頭脳が盛んに働く時間。

イ 最も成績に格差が開く時間。

ウ 最も効率的に忘却する時間。

エ 最も多くの人が頭を使う時間。

問 9 傍線部⑤ 「工場としてもものを創り出さなくてはいけない」とありますが、筆者は人間の頭を「倉庫」としてのみ使うことに意味を見出していません。それはなぜですか。本文中の言葉を使って、二十五字以内で答えなさい。（句読点を含む）

問 10 傍線部⑥ 「場ふさがりがごろごろしている」とありますが、それはどのような状態ですか。最も適当なものを、次のア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 忘却すべき情報が、頭に多く残ってしまっている状態。

イ 忘却すべき情報が、睡眠することで掃除された状態。

ウ 忘れてはいけない情報が、記憶力の限界を超えて存在している状態。

エ 忘れてはいけない情報と、そうではない情報の見分けがつかない状態。

問11 次の文を本文に入れるとしたらどこに入りますか。最も適当な場所を【ア】 【イ】 【ウ】 【エ】 から一つ選んで、記号で答えなさい。

忘れる努力が求められるようになる。

2

次の文章は、『宇治拾遺物語』の一節です。昔、ある僧坊（僧侶が修行するための住居）に、長く修行を積んだ聖（高僧）が、召使いの童と一緒に住んでいました。また、聖を尊敬している獵師が近くに住んでおり、いつも聖のもとに食べ物などを運んでいました。ある日、久しぶりに獵師が聖のもとをたずねると、聖は不思議な話を始めました。これに続く文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「この程いみじく貴き事あり。この①年比、他念なく経をたまち奉りてある②験やあらん、この夜比、普賢菩薩、
（まことに） （一心にお経を読み続けている） （最近毎晩、）

象に乗りて見え給ふ。今宵とどまりて拝み給へ」といひければ、この獵師、「世に貴き事にこそ候ふなれ。さらば
（お見えになる） （何とも） （ございます）

泊りて拝み奉らん」とてとどまりぬ。

さて聖の使ふ童のあるに問ふ。「聖③のたまふやう、いかなる事ぞや。おのれもこの仏をば拝み参らせたりや」
（おっしゃることは） （お前さんもこの仏様を拝見したのか）

と問へば、童は、「五六度ぞ見奉りて候ふ」といふに、獵師、「④我も見奉る事もやある」とて、聖の後ろにいね
（眠り）

もせずして⑤起きぬたり。九月廿日の事なれば、夜も長し。⑥今や今やと待つに、夜半過ぎぬらんと思ふ程に、東
（旧曆九月二〇日） （真夜中過ぎになったか）

の山の嶺みねより月の出づるやうに見えて、嶺の嵐もすさまじきに、この坊の内、Xさし入りたるやうにて明くな

(僧坊)

りぬ。見れば、普賢菩薩Yに乗りて⑦やうやうおはして、坊の前に⑧立ち給へり。

(あ)聖泣く泣く拝みて、「いかに、ぬし殿は拝み奉るや」といひければ、「いかがは。この童も拝み奉る。をいを

(どうだ、お前さんも拝見したか)

(もちろんです)

(おお、)

い、いみじう貴し」とて、獺師思ふやう、「聖は年比経をもたもち、読み給へばこそ、その目ばかりに見え給はめ、

(たいへん)

(その目にお見えになるのだろう)

この童、我が身などは、経きんの向きたる方も知らぬに、見え給へるは⑨心は得られぬ事なり」と心のうちに思ひて、

(納得ができないことだ)

「この事試みてん、これ罪得べき事にあらず」と思ひて、尖矢とがりやを弓につがひて、聖の拝み入りたる上よりさし越し

(試してみよう)

(罪にはなるまい)

て、弓を強く引きて、ひやうと射たりければ、御胸の程に当るやうにて、火を打ち消つごとくにて光も失せぬ。谷

(ビュッと)

(あたりに)

(消えてしまった)

へとどろめきて逃げ行く音す。聖、「これはいかにし給へるぞ」といひて、(い)泣き惑ふ事限りなし。男申しけるは、

(大きな音を立てて)

「聖の目にこそ見え給はめ。⑩我が罪深き者の目に見え給へば、試み奉らんと思ひて射つるなり。実の仏ならば、

(試してみよう)

よも矢は立ち給はじ。されば Z なり」といひけり。
(まさか矢は立ちなざるまい)

夜明けて、血をとめて行きて見ければ、一町ばかり行きて、谷の底に大きな狸たぬき、胸より尖矢を射通されて死
(血の跡をたずねて)

して伏せりけり。

※ 「普賢菩薩」……お釈迦しやか様が法を説く時、助け協力すると言われている菩薩。寺院などでは、文殊菩薩もんじゆぼさつとと

もに、お釈迦様の隣にまつられることが多い。

※ 「経の向きたる方も知らぬ」……漢字が読めず、お経の本が上を向いているのか、下を向いているのかさえも分からない様子。

※ 「尖矢」……鋭く貫通力の強い、狩猟に使用するための矢。

※ 「一町」……約一〇九メートル。

問 1 傍線部①「年比」・②「験」の意味として最も適当なものを、それぞれ次のア～エから一つずつ選んで、記号で答えなさい。

①「年比」

ア	年を取るにつれ
イ	長年の間
ウ	年の暮れに
エ	年の初めに

②「験」

ア	御参拝
イ	御意見
ウ	御利益
エ	御訪問

問 2 傍線部③「のたまふ」・⑤「起きみたり」・⑦「やうやう」を現代かなづかいに改め、すべてひらがなで答えなさい。

問 3 傍線部④「我也見奉る事もやある」とありますが、これは「私も拝むことができるかもしれない」という意味です。猟師は、なぜそのように思ったのですか。説明しなさい。

問 4 傍線部⑥「今や今やと待つに」・⑧「立ち給へり」とありますが、主語は誰ですか。それぞれ本文中から抜き出して、答えなさい。

問 5 空欄 X・Y に当てはまる語句を、それぞれ本文中から漢字一字で抜き出して、答えなさい。

問 6 波線部(あ)「聖泣く泣く拝みて」と、(い)「泣き惑ふ事限りなし」の二つの場面の「聖」の心情として最も適当なものを、それぞれ次のア～エから一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア 失望 イ 共感 ウ 焦燥しょうそう エ 混乱 オ 激怒 カ 歓喜

問7 傍線部⑨「心は得られぬ事なり」とありますが、猟師は何が納得できなかったのですか。説明しなさい。

問8 傍線部⑩「我が罪深き者」とありますが、猟師は、なぜ自分のことをそのように言うのですか。その理由として最も適当なものを、次のア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 最近、聖に届け物をあまりしておらず、久しぶりの訪問だったから。

イ 最近、あまりよい行いをしておらず、怠けてばかりいるから。

ウ 日頃から、お経を読むこともなく、信仰心のかけらもないから。

エ 日頃から、獣を捕る仕事をして、殺生を繰り返しているから。

問9 空欄 Z に当てはまる言葉として最も適当なものを、次のア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア なさけなき物 イ うれしき物 ウ あやしき物 エ おもしろき物

問10 この文章を通して、作者が伝えたい内容として最も適当なものを、次のア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア どんな状況下にあったとしても、思慮深く物事を観察すれば、真実を見抜くことができる。

イ どんな恐ろしい状況になったとしても、しっかりと自分の仕事をやりとげる気持ちが大切だ。

ウ 人によってはたいへん感動的な場面であっても、興味のない者にとってはつまらないだけである。

エ 神や仏は本当に存在するはずがないのに、熱心に信仰すると、結局はだまされることになる。

問11 本文は鎌倉時代に成立した『宇治拾遺物語』からの出題です。この作品と同時期に成立した作品として最も適当なものを、次のア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア
源氏物語

イ
古事記

ウ
平家物語

エ
東海道中膝栗毛